

転重軽受法門

御書新版 1356頁 3行目〜5行目
御書全集 1000頁 3行目〜4行目

涅槃經に転重軽受と申す法門あり。

先業の重き今生につきずして、未来に

地獄の苦を受くべきが、今生にかかる

重苦に値い候えば、地獄の苦しみはつ

ときえて死に候えば、人天・三乗・一

乗の益をうること候。

通解

涅槃經に「転重軽受（重きを転じて軽く受く）」という法門がある。過去世でつくった宿業が重くて、現在の一生では消し尽くせず、未来世に地獄の苦しみを受けるはずであったものが、今世において、このような（法華經ゆえの大難という）重い苦しみにあったので、地獄の苦しみもたちまちに消えて、死んだ時には、人・天の利益、声聞・縁覚・菩薩の三乗の利益、そして一仏乗の利益たる成仏の功德を得るのです。

語句

涅槃經

釈尊の臨終を舞台にした大乘經典。

一乗

一仏乗のこと。成仏への唯一の教えのこと。ここでは得られた仏の境地。

三乗

声聞乗・縁覚乗・菩薩乗のこと。それぞれ声聞・縁覚・菩薩の覚りを得るための教え。ここでは、得られた声聞・縁覚・菩薩の境地。